

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス（別館）		
所在地	福岡市西区飯氏242-1 (電話) 092-805-5101		
自己評価作成日	令和元年8月15日	評価結果確定日	令和元年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ほんわかハウスの主は入居者お一人お一人であり、入居者の意思及び人格が尊重されお一人お一人のペースや希望に添って自由にありのままに暮らして頂いています。
 ・地域や家族との結びつきを重視し、地域に開かれたホームです。
 ・季節ごとに行事を計画し、季節感を味わって頂く事や日々の暮らしに自信と喜びを持って暮らすことが出来るよう支援しています。
 ・入居者の能力が最大限に生かされ、その方にあった生活を送っていただくと共に生活の中に役割を持って頂きながら暮らして頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年9月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周囲は交通量は少なく、静かで自然が残された場所にある。法人敷地内には葡萄やイチジク、すもも、その他複数の果樹を育てており、1年を通して季節を感じる事ができる。利用者の高齢化や身体レベルの低下はあるものの、職員は可能な限り、利用者と一緒に周辺を散歩し、市外や県外の外出や、行事を企画し、利用者が退屈な日々を送らず、活気がある日課が過ごせるよう工夫をしている。隣接する老人保健施設との行事の交流や、車で10分離れた同法人のグループホームとも交流の機会があり、他者と触れ合う支援を大切にしている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、各々にあった作業の提供、外気浴や散歩、ドライブにお誘いし理念を実践するように努めている。又、理念に基づいて介護計画にも反映している。	地域密着の理念は、新人研修時の教育の他に、管理者からの日々の声掛けを含め、実践的に取組むよう指導している。職員が自主的に、利用者と散歩や近隣の特定非営利活動法人が運営するカフェへ出かけている。それは、地域の障がい者との交流にもなっており、地域社会づくりにつながっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流後に利用者様のお誕生日会に参加して頂いた。夏祭りに参加し地域の方との交流に努めている。散歩、外気浴の際、地域の方とお会いした際は挨拶、会話をしている。	法人で開催する夏祭りには、近隣の住民が参加し、盛大に行われている。事業所には、園児の慰問や、住民からのおすそ分けなどがあり、交流が保たれている。最近では、利用者の状態のレベルが低下しており、高齢化が進み、地域活動への参加が実践できていない。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、介護、認知症について情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者様の状況や活動、事故についての報告も行い意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、地域情勢の意見交換や、入居状況、事故・行事報告、感染症に関することが話し合われている。利用者家族の参加はないが、行政職員や地域住民代表の参加がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域交流を通して老人会長、町内会長、民生員さんとの意見交換を行っている。又、サービスについてもわからないことがあれば市等へ問い合わせを行っている。	日頃から市、包括支援センターとの連携は意識しており、入居空き状況や運営基準、利用者負担金の確認など行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠は行っていない。気候の良いときは散歩や外気浴へお連れし気分転換して頂いている。スピーチロック等が見られたときはその都度、注意を行っている。勉強会も行っている。	身体拘束を排除するためにガイドライン、指針、マニュアルをもとに実践している。事故防止の観点から、居室にはセンサーや衝撃吸収目的のマットを設置している利用者もいるが、ケアプランに立案しており、家族から同意ももらっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施しており、日頃より実践できるように努めている。福岡市の出前講座に依頼し勉強会を行い勉強会を通して職員は理解出来るよう努めている。日々のケアの中でも入居者様の身体を観察し、体の痛み等早期発見に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会を含め内部でも勉強会を実施している。成年後見制度についてもすぐに説明できるように玄関にパンフレット等を置いている。	権利擁護の外部研修の参加以外にも、内部研修を今後企画し、実施する予定である。成年後見制度の説明資料は、玄関に用意しており、突発的な相談でも管理者以外の職員は、案内することができる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際はお便りにて報告し、来訪される際、あるいは電話等で納得していただけるよう説明を行っている。納得して頂けるよう説明の合間で疑問点を尋ねている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪された際は必ずコミュニケーションを図り、家族の方の意見を聞くようにしている。直接、言い出しにくい方はご意見箱を利用される方もおられ、ご意見を頂いた際はすぐに検討しサービスに反映している。	職員は、利用者や家族からの意見聴取に関して、日頃のコミュニケーションが重要と意識している。面会時に声かけを行い、運営に対する率直な意見を聞き取っている。苦情受付第三者相談窓口に関しても入居時に説明され玄関にも案内表示している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外でも、役職者は職員へ意見を聞いたり、出しやすい環境作りに努力している。ユニット会議、カンファレンスを通して職員間のコミュニケーションを密にするように努めている。その時に多くの意見が出るよう職員への問いかけもを行っている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを日ごろから意識しており、意見や要望に対応している。定期のユニットミーティングが2～3か月ごとの開催になっているため、代替策として、申し送りノートが意見交換の場となっている。ミーティングが毎月開催できるよう検討する予定である。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の職員の機能を優先し少しでも働き易いように環境を整えている。職員全員の希望の休日がとれるように調整を行っている。勤務年数に応じた仕事や業務分担においてもやりがいなどを考慮して行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用においては年齢、性別、経験等で判断することは無い。能力に応じた働きが出来るように環境整備に努めている。職員の能力把握に努め、長所を伸ばせるような指導も行っている。	職員に対する法人のキャリアアップ体制は自己実現、能力を発揮できるよう配慮している。育児支援や、希望による休暇の取得など、シフト調整により、働きやすい職場環境に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部、外部の研修や勉強会に参加し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	主に高齢者の人権に関して、終日内部研修を実施している。資料は、人権全般の内容が記されており、高齢者以外の人権に関しても、学習している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手なこと、自信がないことは繰り返し学ぶ機会を作るように努めている。新人職員には新人研修も行い、OJTでの育成も行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の講師として参加してもらい情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時等にご家族やご本人に要望や困りごとがないか等を伺っている。ご本人の思いを汲み取り、安心できるように接するよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、ご家族の思いを受け止めるように努めている。特に来訪された際には情報交換を行い信頼関係を築くよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の中で必要とする支援をアセスメントし、適切なサービスを提供できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者と生活を共にするパートナーの理念の元、入居者の持つ力が発揮できるように関わることに努めている。特に衣類のたたみもの、干し物を一緒にして頂いたり食事の準備を手伝って頂いたりしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時やお手紙で様子を伝え、必要な時はご家族に相談、協力をお願いして支援を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の希望により馴染みの病院へ受診にお連れしている。馴染みの場所へドライブにお連れしている。	利用者の生活歴、住居歴などは家族へ記入してもらい「人生のドキュメント」としてまとめている。その情報は、認知症ケアのヒントとして支援に生かせるよう努めており、知人への電話や訪問の際や、自宅への盆・正月の帰省で、入居前の関係が継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	風船バレーを行ったり入居者同士の関わりが持てるように働きかけるように努めている。入居者同士の相性を考慮し、リビングの席決めやドライブ時の座席を考えている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が決まった後も、その後について連絡を取り合っている。退去時にも些細な事でも良いので何かあったら相談に乗れることも伝えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、その方の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な方においては、ご家族に聞いたり、その方の立場になって考えるよう努めている。	入所以前の面談や聴き取り、あるいは、他事業所から得られた基本情報や、生活歴、居住環境、生活への思いを「フェイスシート」として個人ファイルにまとめている。入所後に、ご本人やご家族から知り得た新しい情報や気付きは、その都度加筆している。ご本人からの聴き取りが難しい際には、蓄積された本人像に従って、本人の利益を守っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普通の会話の中やご家族からの情報提供の中での生活歴、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中でその方の心身状態で出来ること、出来ない事の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にお話しを伺い意向に添った計画を立てている。毎月のカンファレンスで職員が意見、アイデアを出し評価を行い見直しを行っている。	全職員が、入所者個々についての気付きとそれに伴うケアの内容についての提案や、ご家族との面談から感じ取ったことを「申し送りノート」に書き込み、それを読んだ職員が、意見を書き込むという方法で、ケアの統一を図っている。その内容をケアマネジャーが整理し、カンファレンスの際の検討課題としている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子や体調の変化など詳しく記録に残し情報を共有している。ご家族との連絡内容についても情報を共有できるように記録に残している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態の変化によって適切な支援ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山笠見物や地域主催の夏祭りなどに参加している。地域の高校生や保育園児などを招き夏祭りなど季節の行事に参加していただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的受診の支援、また必要に応じて他科受診の支援を行っている。	入所時にホームの医療提供体制について説明がなされ、利用者・家族の選択により入所後のかかりつけ医が選ばれている。ホームかかりつけ医以外をかかりつけ医とする際の受診は、家族が責任を負うことになっているが、実際は、ホームが受診を支援している。かかりつけ医からの入所者への留意事項については、ケアプランに落としている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調が悪い時はすぐに看護師に報告し指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には既往歴や現在の身体状態、服薬の内容等の情報を提供できるように整理している。退院時は医療情報を提供してもらい、身体状態を把握しケアを行っている。又、病院の相談員にも連絡を取り状態の把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族の意思確認を行っている。その後も定期的にご家族に意思確認を行っている。その様な状態になられた際にも再度意向を伺っている。	入所時に、ホームの重度化や終末期体制について説明がなされ、利用者・家族から同意を得ている。その後は毎年見直しをしている。更新時の見直し、また家族申し出により関係者が協議した結果、変更が生じる際には、改めて契約を交わしている。契約に変更があった入所者については、職員に周知しているので、統一した対応がなされている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会で学んでいる。夜勤のときは緊急時マニュアルを確認し緊急時に適切な対応ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災による避難訓練を行っている。毎日の訓練では、地震・風水害についても訓練を行い、避難方法について確認し合っている。マニュアルも作成している。	火災対応の避難訓練は年2回行われている。その内1回については運営推進会議を設定した日に行い、会議終了後の参加者も訓練の様子を見学した。地震や風水害など想定災害に応じた避難マニュアルが策定されている。また、毎回時間を決めて、避難訓練を行っている。備蓄品は隣接する老健に保管してある。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しては敬語を使い、ご本人、ご家族が不快になることがないように声掛けを行っている。	言葉遣いについては意識し、日頃から職員間で注意し合っている。ご家族の面会時には自室でお話しなさるよう薦めている。職員も入所者との話しが個人的な事柄に関わる際には、自室で話している。居室のドアに取り付けられているのは小さな磨りガラスなので、外から中の様子を見ることは出来ない。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や行動の中から思いや希望を捉え、自己決定できるように解りやすい言葉を使うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞いて実践している。意思疎通が困難な方は表情や仕草を見ながら、その方らしい暮らしができるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができる方には更衣時は服を選んでもらっている。服の汚れがある時は着替えていただき身だしなみに気を付けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使うようにし、入居者と職員と一緒に下準備を行ったり、おかずのつぎ分けをしていただいている。食事の見目にも配慮している。	ご飯茶碗や湯飲みは全員同じものではなく、入所者毎に用意されている。ご飯は個々の食事に依りて盛られている。下ごしらえや盛り付け、下膳やテーブル拭きなど、利用者は思い思いに携わっている。夕食の献立については、その日の食材事情や入所者の希望などから、その日に決めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録で一日の食事量、水分量を把握し、不足しているときは補食の提供をしている。その方に合わせた形態で提供を行い、栄養、水分の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でハミガキができない方には介助で口腔ケアを行っている。その際は口腔内の状態に合わせてスポンジブラシやガーゼ等を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンをチェックし訴えない方には声を掛け排泄を促している。食事前、就寝前には声掛けを行っている。	トイレは3ヶ所あり入所者の身体状況に応じて使い分けがなされている。紙おむつやパット類も個々の排泄状況により使い分けられている。排泄チェック表は職員使用空間に貼られており、入居者や家族の視線からは隠されている。トイレの場所を分かりやすく示す工夫もなされている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として献立に乳製品やバナナ等を取り入れている。薬の副作用により便秘になることがあるので薬の変更があったときは確認を行っている。毎日、午前と午後にラジオ体操を行い運動不足にならないように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の際はご本人の意思を確認している。入浴を好まない方には、その方が納得できるように声掛けを行っている。週2~3回入浴していただき清潔保持に努めている。	入浴については、なかなか自分から求めて入浴ということがないため、毎日お風呂を沸かしていつでも対応できるようにしている。浴室、脱衣場どちらにも冷暖房設備が調えられている。石けん・シャンプー等入浴用品についても、好みに応じて対応している。また、個人の体調に応じて、安全な入浴が行えるよう工夫がなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせて起床、就寝の支援を行っている。その日の体調や前日の入眠状況により休息を促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会を行っている。薬の変更時は副作用などに注意し様子を記録し医師、看護師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意、不得意を把握し家事や作業を提供している。その方が持つ力を発揮できるように働きかけ、張り合いや喜びのある生活を送れるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や意見を聞きながらその日の状態でドライブや散歩、外食をしている。季節ごとに花見に出かけたり、新聞販売店から頂く招待券を活用して美術館や博物館にお連れしている。	四季の移り変わりを身近に感じられる自然豊かな環境ということもあり、施設横の坂道が、運動をかねた散歩道となっている。また、利用者の希望に応じられる際には、毎日のようにドライブに出ている。外食行事は細かな食事への対応が困難で行えていない。人手の要る外出には法人内事業所から応援を得て実施している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のケーキ屋さんで一緒に買い物をすることはあるが、基本、入居者様はお金を所持されていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたときは電話で会話をさせて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには季節の花を飾っている。適切な室温になっているか尋ねるようにしている。大きな音、声に気を付けている。毎日掃除を行い、清潔な環境で過ごしていただけるように努めている。	食堂を兼ねたフロアは明るく、風通しもよく清潔に保たれている。照明には暖色系の電灯が使用されている。また屋内の色調も茶色を中心に整えられており、落ち着いた雰囲気が醸し出されている。また、椅子は背もたれと肘掛のある安定性の良い、しっかりとしたものであるが、座面が回転する仕様のため、立ち座り動作は安全に行える。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士同じテーブルに席を設けている。必要に応じて席を変更している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室への持ち込み家財において制限をかけていない。使い慣れた物、大切にしていたものを置いている。家族の写真を飾っている。	各居室にはベッド、エアコン、洗面台が標準で整備されている。入所者はそれぞれの暮らしに合わせてタンスや机等の家具類を持ち込んで生活している。持ち込まれた机やタンスの上、また室の壁には思い思いに思い出の品が置かれたり、貼られており、ご本人の暮らしが偲ばれる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かないようにして安全に歩行できるようにしている。トイレや浴室がわかるように表示して迷わないようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		